

地域課題の解決に向けた取組

# 民有林と国有林が一体となった 効率的な森林整備の推進

石狩森林管理署

石狩森林管理署では地域の森林・林業における課題解決に向けた様々な取組を行っています。

その一つとして、「森林整備推進協定」があり、民有林と国有林とが連携して森林共同施業団地を設定し、施業の集約化、路網整備及び効率的作業システムへの移行により低コスト化を図り、効率的な森林経営を推進することを目的に締結しているものです。

その中から「積丹地域森林整備推進協定」について紹介します。

## 【協定締結の背景】

積丹町には約2万haの森林があり、その約3/4が国有林、約1/4が民有林となっています。

民有林における人工林の多くは高齢級で、すでに利用期に入っていますが、この地区には製材工場や林業事業体がなく、木材の需要地からも遠距離であり、また、森林所有が小規模で分散しており路網が

十分整備されていないこと等から効率的な施業も難しく、森林整備が進んでいません。これらを解決し、森林を地域の振興に資することが当面の課題となっています。

## 【協定の取組内容】

本協定は、平成20年11月に積丹町、北海道水産林整備事務所、当署の三者で締結し、区域は約千4百haとなっています。



間伐が進む積丹町余別地区の森林共同施業団地（積丹町有林）

協定の1/2期目は路網整備に重点を置いた林道等の接続や相互利用を中心に行い、3期目の現在は森林整備事業の効率化を目指した取組を行っています。

## 【事業の合同入札の実施】

これまでの森林整備事業は町、国毎の発注でしたが、まとめて発注する「合同入札」を実施しました。結果、入札は不落でしたが、合同入札に参加した林業事業者の意欲は衰えず、その後に行われた町有林の随意契約者と国有林のみの入札の落札者が同一となり、実質的に一つの大きな事業として効率的で低コストな森林整備が実現できたと考えています。

## 【ストックヤードと協調出荷】

積丹地域は、これまで山中の土場に丸太を集積していたことから、アクセスの悪さが木材販売の難しさにつながっていました。問題を解決するため、国道に近い町有地に大型トレーラーも利用可能な広大なストックヤード（共同土場）を整備しました。ここに木材を運び入れ効率的な木材輸送を可能にするともに、出材量の大きい国有林材と同一の木材公売にかける「協調出

荷」を行うことで、出材量の小さい町有林材についても有利販売につなげたいと考えています。



上空から見たストックヤード

## 【今後の取組】

このような共同施業を実施するには、地域の皆さんの理解と協力が不可欠であることから、現地見学会等を開催することとしています。

高性能林業機械による作業やストックヤードに積み上げられた木材を実際に見ていただき、森林は地域の振興に資する資源であり、それを適切に管理していくことの大切さ等に理解を深めていただく中から、民・国の協力によるさらなる取組を進めていきたいと考えています。